

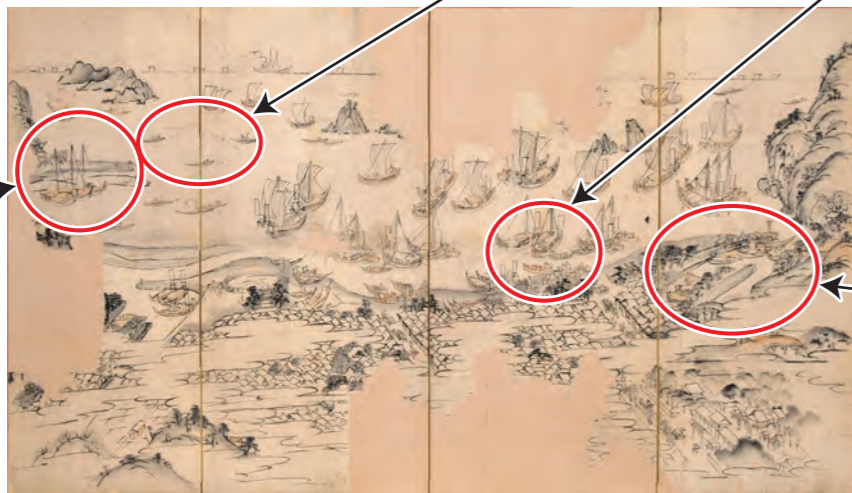
学校名()年()組 名前()

梧陵のふるさと (第1章)

東側から湯浅の町や湯浅湾を描いています。沖にはたくさんの帆船が停泊し、浜には小船が並び、樽らしきものを乗せて浜に向かう(大八車)が見えます。
〔展示番号3参照〕

湯浅の浜で、小船に特産の(しょうゆ)が入った樽を積み込んでいます。小船が沖合に停泊している帆船に近づき、樽を積み替えています。
〔展示番号3参照〕

山田川河口にある(大仙堀)に小船が停泊し、荷物の積み下ろしをしています。石積みの護岸には、現在も葺が建ち並んでいます。
〔展示番号3参照〕



明治時代の湯浅・広の風景をみてみよう。
〔展示番号3〕

広村にあった「大波戸」と呼ばれた船着き場です。紀伊藩初代藩主の(徳川頼宣)が築いたといわれています。
〔展示番号8~10参照〕

祖父・灌圃と周辺の人々 (第2章)

1875年に行われた広八幡神社の祭礼行列を描いています。広八幡神社では、江戸時代から毎年8月15日に祭礼が行われ、神社での神事のあと、神社から浜に渡御行列が行われました。最後尾では、白装束の人が(神輿)を担いでいます。
〔展示番号15参照〕

右手にうけ棒、左手に鉾をもつ鼻高面をかぶった人がみえます。広八幡神社には、1589年に灌圃の先祖である(濱口安太夫)という人が作った鼻高面が残されています。1824年にその鼻高面を灌圃と矩美の2人が修理をしています。
〔展示番号19参照〕



広八幡神社で行われた渡御行列の様子をみてみよう。
〔展示番号15〕

行列が出発する場所で、(八幡宮)の幟がみえます。その奥にある男山では、江戸時代終わりから明治時代の初めにかけてやきものが焼かれました。職人の1人に、印南町出身の(光川亭仙馬 [土屋政吉])がいました。
〔展示番号15・42参照〕

行列には、楽器を演奏する人も参加しています。梧陵の祖父である灌圃は、(笙)という管楽器を担当していました。この絵にもその楽器を演奏する人が描かれています。
〔展示番号15~17参照〕

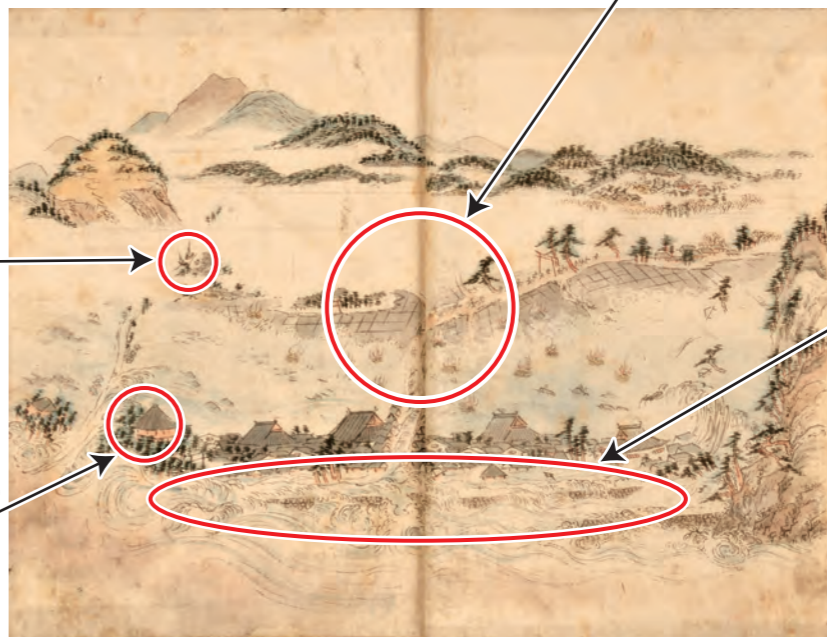
行列は浜にある(御旅所)に向かっています。そこには湯をわかす釜がおかれています。到着した行列の人々は、わかした釜のお湯に笹を浸し、身にふりかけて、神に祈る神事を行いました。
〔展示番号15参照〕

安政地震津波と梧陵・咏処 (第3章)

広村を襲った1854年の大津波の様子を描いています。描いたのは、広川町出身で、千葉県銚子市で醤油醸造業を営んでいた(古田咏処)という人です。
〔展示番号24参照〕

広川の上流に2隻の(帆船)がみえます。おそらく、広川をさかのぼった津波が運んだとみられます。

『安政聞録』が残されている(養源寺)という寺です。
〔展示番号24参照〕



広村を襲った安政の大津波の様子をみてみよう。
〔展示番号24〕

襲ってきた津波から、高台にある(広八幡神社)に逃げる人々の姿がみえます。道の両側の田では、刈り取った(稲むら)に火がつけられています。この道は、毎年行われる渡御行列の道でもありました。

津波が、室町時代に畠山氏が築造したといわれる(浪除けの石垣 [畠山堤防])を越えて、家や田が海水に浸かっています。津波から4年後に梧陵によって(広村堤防)が築かれました。
〔展示番号6・7参照〕

幕末・維新时期における梧陵と海荘 (第4章)

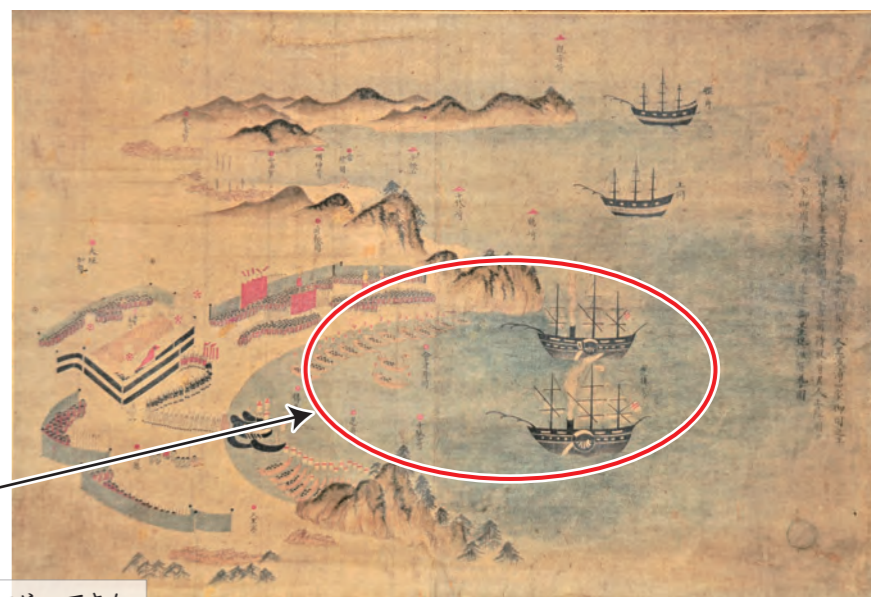
1853年にアメリカ東インド艦隊司令長官の(ペリー)が、4隻の軍艦を率いて神奈川県横須賀市の浦賀沖に現れ、6日後に横須賀市のくりはま久里浜に上陸する様子を描いています。
〔展示番号32参照〕

右に見える2隻の巨大な船は、アメリカの船です。その色から(黒船)と呼ばれていました。一方、左に見えるたくさんの小さな船は日本の船です。この事件が起こったとき、梧陵は(江戸)にいました。
〔展示番号32参照〕

19世紀中ごろに日本にやってきた外国船の様子をみてみよう



この船は、1854年に和歌山の日高沖に現れた(ロシア)のディアナ号です。驚いた紀伊藩は、海岸防備を村役人や地士に命じ、梧陵も海岸の固場に詰めています。
〔展示番号33参照〕



常設展「きのくにの歩み」コース

現在の和歌山県内に、人々が住み始めたのは、今から約3万年前の旧石器時代のことでした。その後、奈良時代からは、紀伊国と書き表されるようになります。

紀州ともよばれた紀伊国は、現在の和歌山県に三重県の南部を加えた広い土地でした。

戦国時代の終わりごろ、和歌山城が築かれ、その城下町を和歌山と呼ぶようになり、明治時代以降は、県全体も和歌山という名前になったのです。

【常設展や企画展、2階の展示を見た感想や印象を書いてください。】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

問題1

弥生時代になると、3種類の形の土器がみられるようになります。それぞれ何というのでしょうか？

答え (壺 つぼ)
(甕 かめ)
(高坏 たかつき)

問題2

奈良時代の人々が納めた税のうち、成人男性が、地域の特産物を納めるものを何といいますか？(きのくにでは、塩を納めることが多かったようです。)

答え (調)

問題3

阿氏河荘の農民は地頭の湯浅氏のひどい仕打ちを文書で訴えました。その文書の特徴は何でしょうか？

答え ほとんどの文字が (カタカナ) で書かれている。

問題4

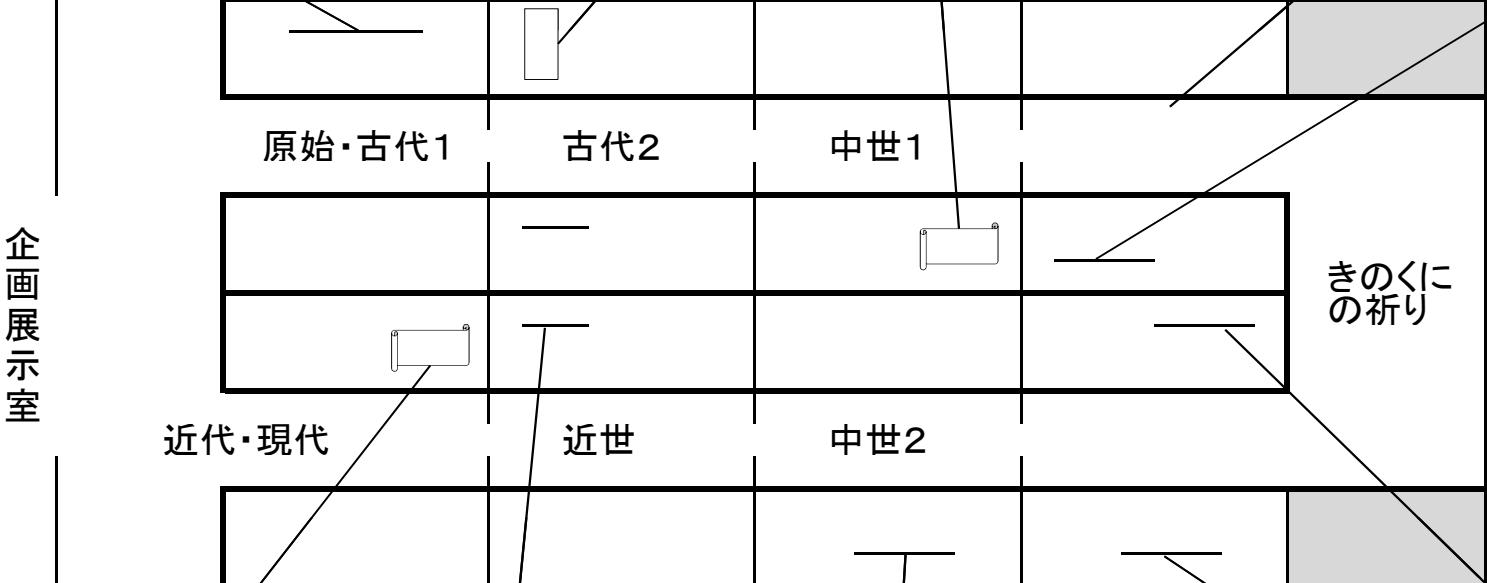
きのくにでは、古くから観音菩薩をまつるお寺が開かれています。それらのお寺を巡るコースをなんと呼びますか？ () に入る数字を教えてください。

答え 西国 (33)ヶ所

問題5

空海(弘法大師)が高野山を開いた後、守護神として丹生都比売神社などにまつられた2人の神様は、何という名前ですか？

答え (丹生)明神
(高野)明神



問題6

熊野地方には、熊野三山という3つの霊地があり、それぞれ中心となる神社がありますが、その名前を書きなさい。

答え
熊野 (本宮) 大社
熊野 (速玉) 大社
熊野 (那智) 大社

問題11

和歌山藩では、1873年の全国徴兵令に先がけて、20歳になった男性を士族・平民に関係なく徴兵する制度が行われました。この制度は、何と呼ばれているのでしょうか？

答え (交代兵) 制

問題10

紀伊徳川家は14代にわたって紀伊藩主をつとめました。そのうち2人は江戸幕府の将軍になっています。それは、誰と誰でしょうか？

答え 徳川 (吉宗)
徳川 (慶福)

問題9

「戦国時代の勢力配置」のパネルを見ると、この時代のきのくにでは、特徴的なことがうかがわれます。それは、どのようなことでしょうか？

答え (戦国大名が) 登場しなかった

問題8

那智参詣曼荼羅図の中で、熊野那智大社の屋根には、ある鳥がとまっています。その鳥は、熊野の神のお使いとして知られていますが、それは何という鳥でしょうか？

答え (カラス)

問題7

熊野三山へ向かう熊野古道(参詣道)沿いには、数多くの小さな神社があり、人々はこれらにもお参りしながら熊野へ向かいました。これらの神社は何と呼ばれますか？

答え (王子社)